

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスファーストフレンド北筑（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～	2025年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～	2025年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月28日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の支援方針を全職員で共有し、一貫性のある支援をしている。</li> <li>・運動好きな職員、音楽、工作が好きな職員が在籍しているため児童のニーズに合った遊び、支援を提供できている。</li> <li>・たくさんの知育玩具をたくさん用意している為飽きない環境づくりをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に負けないくらい元気に遊びON,OFFをしっかりと児童と関わっている。</li> <li>・各児童得意な事、好きな事を伸ばす支援をしているが時には集団で遊ぶ楽しさを知って欲しい為みんなで公園や外出活動に出かけるようにしている。また、どうしたら楽しめるか喜んでくれるかを常に考えて行動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各児童の特性を職員間で共有、または各自勉強をしてどの児童でも自信をもって対応,支援できる能力を今以上に身に着けるため、勉強会などに積極的に参加をして知識と技術を身に着けるように努めたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の違いがあった場合はその時に話したり職員会議で話し合いその時に解決して楽しく働きやすい環境づくりを心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の早帰り、土曜日、長期休暇期間は外出活動を用意しその中から児童に何がいいかをみんなで選択させ外出活動をしている。（事前にどこに行きたいかなども聞いています。）</li> <li>・外出先でのルール、マナー、社会性向上の一貫として行っている。また、外出先で関わるお友達と遊ぶことでルールのある遊び、順番を守る力などが養われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出時は基本的に低額又は無料で楽しくいろんな経験をできる場所を選んでいるがもっと楽しくいろんな経験をするためには保護者から料金を徴収して有料施設などを利用し幅広く活動できるようにしていくことを検討中。</li> </ul>

3	<p>・一軒家を事業所としている為、アットホーム空間で部屋数もあり音が苦手な児童、クールダウン、宿題に集中したい児童が少ない人数の部屋で活動できるため児童のストレス、不安が少なく活動できる。</p>	<p>・北九州の【おもちゃライブラリー】にて知育玩具や運動グッズを借りて事業所に置いています。とても好評で職員も一緒に楽しみながら活用しています。2週間で返却にはなりますが毎回違うおもちゃなどが借りれて飽きずに遊んでいます。</p>	<p>未就学児は神経系などの成長が特に著しい時期の為児童の好きなことを伸ばしそれ以外にも色々なおもちゃや遊びを経験させるように心がけている。(外出活動も)</p>
---	---	--	---

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>・部屋数が多い為各職員がどの児童がどこにいるのかをより一層把握する必要がある。そのため職員間の声掛けが重要になるので声掛けをしながら事故、怪我がないように気を付ける必要がある。(※基本的に2Fにはいかない。行く際には必ず職員がついていく。)</p>	<p>新規児童が増えてきている為アセスメント、計画書を読み込んだり支援方針の統一を徹底しうまくできた支援内容があれば共有して支援の質向上を目指す。</p>	<p>感謝の気持ち(ありがとう)を日々伝えています。大人になるにあたり感謝の気持ち(ありがとう)と言えることは大切だということを認識できるように支援していく。発語の難しい児童、言葉だけでは理解できない児童にはジェスチャーや視覚支援などを用いて伝えていく。</p>
2			
3			